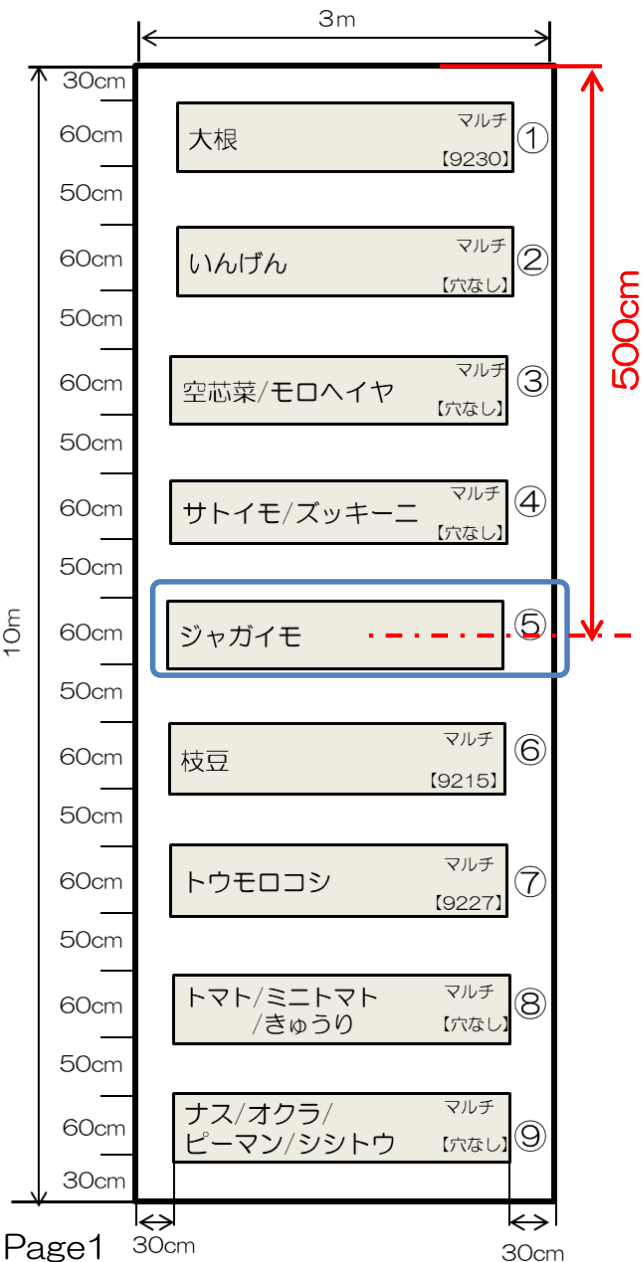


→ 北(農具庫側)

注：講習当日、内容が変更になる可能性があります

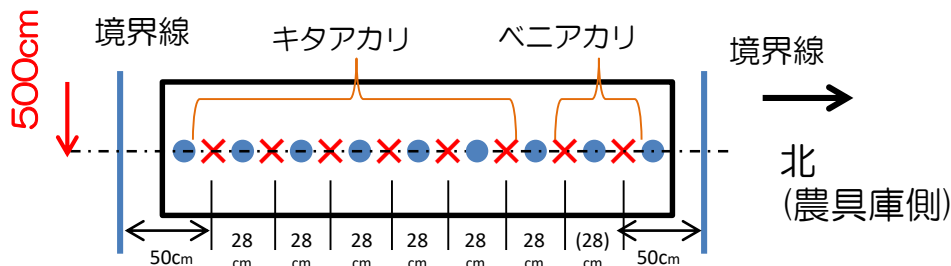


□畑づくり(区画全体)

- 施肥：堆肥 2袋(15kg)、鶏糞 1袋(15kg)
- ※今年度も実施済み(耕耘機にて混ぜ込み済)です。

□ジャガイモの植付け(⑤列目)

- キタアカリ：3個(6か所)、ベニアカリ：1個(2か所)
- 種イモ切り(1/2にカット) ※芽があるところを残す
 - **×指示部**に深さ約10cm程度の深さの穴をスコップで掘り、種イモを植え付ける(28cm間隔)
 - 施肥(肥料：**野菜名人**) 1杯 → ●部に均等に撒く



※標準は30cm間隔ですが、種イモを効率よく使えるよう間隔を狭めています。

- 注1. **区画/作付け位置に注意し、植付を行ってください。**
- 注2. 畝(うね)の作成や植付時に寸法を測る場合、**区画の境界線(トラロープ)を基準**としてください。区画内/区画間の通路が確保できなくなるためです。

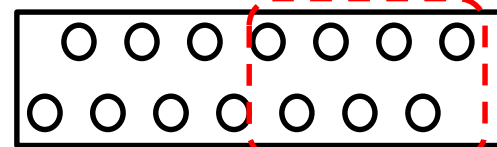
→ 北(農具庫側)

注：講習当日、内容が変更になる可能性があります

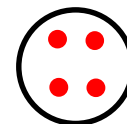


□大根の種まき(①列目)

- 施肥：スーパーIB、石灰アツミン 各1杯(約200g)
- マルチ9230をひく
- 種まき(半分/北側) 1穴4粒
※人参種まきを早めに行うため、日程を早めにしてます
肥料をよく混ぜ込んでください



マルチ穴



種を1か所に固まらないよう、ばらして撒きます
指で4つ穴を空けると楽です

マルチ引き手順(参考) → 1年目の方は個別指導します

- ①採寸し、畝両端に間縄を引く
- ②間縄間に施肥した後、レーキで肥料を畝全体に混ぜる
- ③畝全周を掘る
慣れないうちは角スコップを使うと楽です。
注1.土は畝に垂直に掘り、土は畝外側によける
注2.4隅もしっかり掘る
- ④畝を平らにする(凸凹にすると水が溜まります)
- ⑤マルチを覆い、左右に引っ張りながらしわが出ないようにひく。

※工程⑤の後の微調整



穴を畝の端に合わせると数が多く取れます

30cm分が通路となります

間縄
作業後は片付けます

最後にマルチの縁を押し込むと
きれいに張れます

「各種肥料について」

本資料はHPのみ掲載です

第一回講習では「畑づくり」では堆肥(農園側で実施済み)、「ジャガイモ植え」では配合肥料撒きといった作業があります。同じように感じるかもしれませんが、それぞれ目的が異なります。

「畑づくり」の堆肥/石灰撒きは、**土壌を調整する**ことが主な目的です。

- 堆肥：土の保肥性/保水性/通気性等を高めたり、土中の微生物の活動を活発にすることで、土中の環境を良くする優れた「土壌改良材」としての働きをします。
- 石灰：土壌酸度を酸性→アルカリ性に変え、野菜が育ちやすいような酸度に調整します。

「ジャガイモ植え」の配合肥料撒きは、**野菜が成長するのに必要な栄養分を与える**ことが目的です。野菜に必要な三要素(窒素：N、リン：P、カリ：K)を与えます。

どちらも畑の状態により適正量が異なるため、本講習で示した量がそのまま他の畑(市民農園等)で使えるというわけではありません。ご注意ください

「マルチとは」

マルチとは正式には「マルチング」と言い、土の表面をポリフィルム等で覆う作業を意味します。マルチを行う効果は、以下の通りです。

- ①地温を調整する
- ②土壌水分を保持する(乾燥防止)
- ③雑草の防除
- ④土の跳ね返りを防ぐ(病害防除)

色も、黒/透明/シルバー等があり、それぞれ以下の効果が優れているという特徴があります。

黒：雑草防除 / 透明：地温調整 / シルバー：アブラムシ防除

当農園では雑草防除の効果が高い、黒のポリフィルムを多く使用していますが、トマト/ナスを植えつけるところは、アブラムシ防除のため、銀(シルバー)マルチを使用する場合があります。

ちなみに、マルチ9230の「9230」とは、マルチの種類を示しており、9→95cm幅/2→2列/30→30cm間隔を意味しております。カブ等で使う9415は、95cm幅/4列/15cmとなります。

当講習では、マルチ→穴なしマルチ、マルチ9×××→穴ありマルチと呼びます。2種類以上のマルチ引きがある場合、間違えないように注意してください。

本資料はHPのみ掲載です

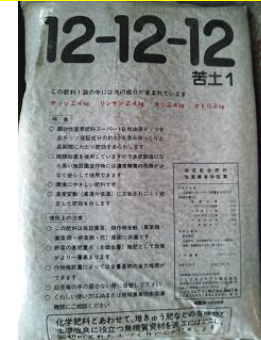
「肥料の紹介」

配合肥料（野菜名人）



野菜用に設計された配合肥料
有機質肥料をバランスよく配合

配合肥料（スーパーIB）



窒素、リン酸、カリウムが各12%
化成8号に比べてやや遅効性だが、
持続性がある。

石灰（カルメイト）



土壌の酸度を調整します

土壌改良材（アツミン）



腐植酸を主成分とした腐植酸苦土肥料です。

以下の目的で使用します。

- 畑に腐植酸を付加して、土壌バランスを整える。
- 肥料成分の効果を高める
- 作物の細根が増え、根張りがよくなる。

※腐植は、土壌中に存在する黒い有機物のことで、有機物中に含まれる土づくりに有効な成分が腐植酸です

詳しくはデンカアツミン(株)のHPをご覧ください。